

里山文化・美しい星空・工場の夜景…

地域の「当たり前前」

観光資源化で成果

川崎のシンポで報告

過疎、高齢化や不況による企業の転出が続く街をいかに活性化させるか―。

地域が持つ資源を生かして、観光客を呼び込む取り組みが全国で広がっている。観光客誘致に成功した

市町村が、工場夜景ツアーを成功させた川崎市で開かれたシンポジウムに集まり、成果を披露した。

「村の人は北極星はどこ

と観光客に聞かれたら全員答えられます」と報告した長野県阿智村。2006年

に環境省から「日本一美しい星空」と認定された自然を生かし、12年に「星の村」として売り出した。

山頂から星を見るナイトツアーを実施、1年目は77日で予想を上回る約6500人を呼び込んだ。JAXAとイベントを実施した

り、NPO法人から「恋人の聖地」と認定されたりしたことも奏功し、3年目の14年は155日で3万3023人と観光客が大幅に増えた。「村の足元を見つめ



たのが成功につながったという。

飯能市は、里山文化を利用したエコツーリズムに力を入れた。お茶摘み、水田作り、ホテル鑑賞会など年



間150近くのエコツアーを市民自ら企画するのが特徴で、市外から6割の客が来る。担当者は「特別な観光資源はないが、地域の当たり前が実は宝物。地域の

①民家でのエコツアー―飯能市
②セグウェイで市内を巡るツアー―茨城県つくば市

魅力を再発見することが大事」と話した。

約50の研究機関がある茨城県つくば市では、11年にモビリティロボット実験特区に認可されたことを生

かし、14年から立ち乗り型2輪ロボット「セグウェイ」を運転して市内を巡るツアーを始めた。

常に予約がいっぱいで、51日間で514人が体験。四国や九州からも客が来る

人気ぶりだ。歩行者とほぼ同じスピードで動くため街の人のコミュニケーションも楽しい、自分がディズニランドのパレードに

出ているよう」と評判を呼んでいる。温泉で有名な群馬県みなみ町は、利根川源流や谷

川岳がある立地を生かし、ラフティングやバンジージャンプなど夏のアウトドアスポーツの売り込みに官民で力を入れ、年々観光客が増えている。

シンポに参加したじやらんリサーチセンター長の沢登次彦さんは「何が観光資源になるかの」アンテナ

があれば外の人に認められる。住民と連携して資源をどう加工して売り出すかも

大事」と指摘。JR東海の須田寛相談役は、「街の『売り』を見つけて住民がブランド化へ努力した。一

過性で終わらせないために、ブランドを磨くストーリーを考え常に提供すればリピーターが増える」と総括した。

(北崎礼子)